

「ほっかいどう学」地方創生塾（鷹栖町）

1年目 第3回

日時

令和3年2月27日（土） 14時～15時30分

会場

北野地区住民センター

参加者

旭川市内や鷹栖町内の高等学校に通う高校生3名
（町内在住3名）

内容

「鷹栖町高校生プロジェクト」の第3回は、北海道による新型コロナウイルス感染症拡大防止に向けた「集中対策期間における取組」により、大幅に延期していたため、急遽開催しました。上川教育局教育支援課社会教育指導班の支援のもと、事業の企画・立案するための基本的な知識と技能を学ぶことと、地域で活動する人材を知ることなど、塾生のスキルアップを目指して実施しました。

前半は、教育委員会山本係長から、前回までの活動の振り返りとこれから「高校生プロジェクト」を進める上で参考になる地域で活動する「地域おこし協力隊員」や移住してきた方が新たな事業を生み出している事例を紹介しました。

後半は、上川教育局教育支援課社会教育指導班の小島主査・佐藤社会教育主事の進行のもと、「企画会議のプロセス」や「企画の手法」を学びました。その後、自分達の思いや事業のねらい、地域住民など事業に関わる人々のニーズ、地域資源の分析を塾生同士で意見を出し合い、ワークシートにまとめました。

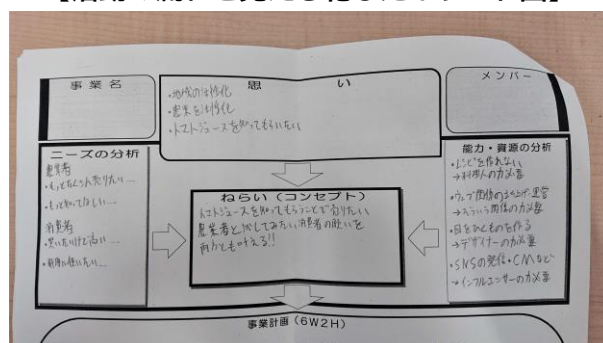
次回は、3月中旬に草野塾長を鷹栖町に迎えて開催する予定です。来年度の具体的な活動を見える化することで、塾生のアイデアの新たな創出と行動力やモチベーションを高めるきっかけにしたいと思います。



【グループワークの様子】



【活動の流れを見える化したイラスト図】



成果と課題

【塾生が作成したワークシート】

期間が空いたことで、高校生の事業に対する意欲面での心配もしていましたが、熱心に耳を傾ける姿やワークショップでの様子から、その心配は見事に吹き飛びました。

前半の「町の動き紹介」では、地域おこし協力隊を含めた地域の人財“20歳代”にスポットをあてて紹介。世代が近い人たちが様々な分野で、ここ鷹栖町で活躍していることは、高校生にはなかなか知られておらず、知ってもらう機会、そして良い刺激になったのではないのでしょうか。

後半の学びでは、次回に向けたスキルアップを目的とし、前回出されたアイデアをどう具現化するか、深く考えられた時間となりました。

人数が少なかったですが、その分深い学びにつながられたと思います。